

令和7年度 第2回 見附市まちづくり総合審議会 議事概要

- I. 開催日時 令和7年7月14日（月）午後2時00分～午後3時40分
- II. 開催場所 見附市役所4階 大会議室
- III. 出席委員 渡邊 誠介委員、原山 義史委員、星野 和孝委員、大坪 重雄委員、
小林 正和委員、坂下 裕之委員、重信 元子委員、鈴木 孝子委員、
若林 千映子委員、結城 愛美委員、佐藤 宏子委員、本間 唯莉委員、
岡山 せい子委員、平山 義孝委員
(出席者14名/委員18名)

IV. 会議の概要

1. 開会

2. 会議の成立

【事務局】

出欠報告委員の過半数が出席していることから、見附市総合計画審議会条例第6条第2項の規定により会議が成立していることを報告する。

3. 会長あいさつ

【渡邊会長】

本日は第2回ということで、第5次見附市総合計画の評価検証と人口ビジョンの改定についてとなっており、人口ビジョンの考え方によって次回以降に審議予定の政策が大きく変わってくるというところが、重要なポイントの一つかと思っている。

先日、新聞に高齢者のシェアハウスについての記事があった。最近ではCCRC（※）が様々考えられており、高齢者を包括する地域包括ケアをさらに進化させたようなものが注目されている。これを今後の見附市としてどうしていくか。また、この人口ビジョンの中には元気な高齢者が今まで以上に増えることになる。そういったところも考慮して施策の検討をしていくことになるのではないかと思っている。皆さんの活発なご審議、ご意見、ご質問等をお願いしたい。

※CCRC (Continuing Care Retirement Community) 継続的なケアを提供する高齢者向けのコミュニティ

4. 委員紹介（第2回から参加の方のみ）

坂下委員、結城委員あいさつ

5. 議事

(審議会条例第6条第1項に基づき、議事進行は渡邊会長へ)

(1) 「第5次見附市総合計画」の評価・検証について

【事務局】

資料1-1、資料1-2に基づき説明

【渡邊会長】

議事(1)についてご質問、意見等いかがか。

【小林委員】

行政の成果を評価するうえで、基準年と令和6年度の実績だけで評価をするのは難しい。例えば令和2年度から毎年の推移を記載してもらえると評価がしやすいと感じた。また、○の部分の考え方について、目標は達成していないけど、数値が増えたから○とするのは、やや乱暴ではないか。目標の半分にも届いていないものも数値が向上していれば○になっている。

評価の考え方は自治体ごとに異なるが、例えば、県では比率で達成度を出しており、90%以上がおおむね達成、80%以上90%未満が不十分、それ以下は著しく不十分としている。

○というメッセージが「合格です」という感じで伝わってしまわないか。

【事務局】

適正な評価及び市民への伝わり方について参考としていきたい。

【原山委員】

要支援・要介護認定率について数値だけを見ると良い結果になっているが、運営機関に聞いてみるとその認定に関して非常に厳しい形で点数をつけられている。介護度が上がらないから特養に入れないという声もある。データだけではなく、実際困っている方がどのくらい増えているということまで踏み込んで調べてもらいたい。

【事務局】

担当課にも確認の上、次の計画で改善できるようなことがあれば、そういったものも考えながら記載の仕方等も含め検討していく。

【重信委員】

市民アンケートについて、個々のものになると回答数が少ないものもあるため、数値に大きなばらつきが出てしまう。市民アンケートの満足度を冷静に判断すべきではないか。

【事務局】

次期総合計画の目標とする値については、どういった数値がよいのか、より実態を捉えられるような目標値になるよう検討していく。

【渡邊会長】

市民アンケートは高齢者が多く回答し、若い方の数は少ない母集団となっていた。

一方で、この審議会の委員構成は若い委員や女性委員の比率を高めている。積極的にご意見を出していただくことで、政策に反映されることもあると思うので引き続き宜しく願います。

(2) 「見附市人口ビジョン」の改定について

【事務局】

資料2に基づいて説明

【渡邊会長】

シナリオ1, 2はこの審議会でどちらかを選ぶものなのか。

【事務局】

どちらを選ぶというものではなくて、まず見附市としてはシナリオ1を目指していきたい。

【重信委員】

目標が2つあるとKPIなどの評価が異なると思うが、どう考えればよいか。

【事務局】

今後設定していくKPIにおいては基本的にシナリオ1を目指すものとさせていただきたい。

【重信委員】

高い目標になることによって達成度は下がると思うがよいのか。

【事務局】

まず出生率について2.07は令和32年(2050年)までに達成を目指す目標値となる。また厳しい状況であることは認識しているが、直近の数年間には人口減少を食い止めるための勝負の年だという覚悟を持って、高い目標に取り組んでいきたい。また、具体的な実際の取り組みについては各課と一緒に考えていく。

【鈴木委員】

各市町村も子育てにはかなり力を入れている。その中で見附市を選んでもらうための魅力というのが何なのかを見つけていくことが大事なのかと思っている。

住んでいる町内では結婚しない独身の方と高齢者が増えている。こういった方にもアプローチできるような状況に改善していくことを考えた方がよいのではないかと感じている。

【平山委員】

話の内容を聞いていると、結婚、子育て施策、公共交通の施策など、結局は市街地だけの事かなと感じてしまうが、農村部のことも含め、見附市全体のことを考えていくということであっているか。

【事務局】

今回策定する計画もそうだが、まちづくりというのは市街地だけを対象にしているものではない。一方で、市街地と郊外で同じ対応ができるかという難しい部分もあり、多様な体制の中で対応していきたい。

見附市全体が少しでも今より良くなるような計画にしていきたいと考えている。

【岡山委員】

一般の市民としては人口ビジョンの目標値の高さのイメージが分からない。このまま人口減少が進むと見附市がどうなるのかという部分を分かりやすく伝えることができれば、市民の気持ちも盛り上がっていくのではないかと思う。

【若林委員】

こども園の視点では、こどもの健全な成長と発達を目的としており、ただ預かっているだけではないので、こどもの視点や処遇改善も含めた現場の声を考慮した子育て支援を考えてもらいたい。

【渡邊会長】

沖縄では地域で子どもを育てるといった感覚がかなりある。社会的な施設に預ければ何とかかなるという考えではなく、お互い様なところであれば見附市民の皆さんに期待できる部分があると思う。

【坂下委員】

国の統計の中で人口動態というのは一番はずれがないと言われている。市民の皆さんにその認識をしていただく必要があると思う。

【星野委員】

個人的には、人口においての高めの目標は必要だと思うし、基本的には賛成している。その中でなぜ女性の転出が多いのか、そのために見附市として今までどういうことをしてきたのか、今後、シナリオ1の人口ビジョンを達成するためにどういうこと取り組むのか、そういったところを説明してもらいたい。

【事務局】

男女問わずになってしまうが、20代の転出超過の主要な要因は進学によるものであり、学ぶ場を求めて市外、県外に出ることは、現状では仕方がないことであると考えている。ただ、見附を離れた人たちにどう戻ってきてもらえるかを、単に離れた後に何かを行うのではなく、見附に住んでもらっている間にできる工夫があるのではないかと思うし、そのような満足度を高めるような取り組みを積み重ねていきたい。

6. 報告

【事務局】

「未来を語るふれあい懇談会」実施状況、参加協力への御礼（報告は次回予定）

7. その他

【渡邊会長】

全体を通じて質問、ご意見があればお願いしたい。

【平山委員】

人口ビジョンについて、人口を増やそうとするターゲットは男性なのか、女性なのか、はたまた日本人なのかといったところまで突っ込んでご討議いただければと思っている。国際化社会の中で是非かはわからないけれど、あくまで日本人でいくのかどうかというところは大切だと考えている。

【星野委員】

女性に好かれるまちでないとやっていけないと思う。この審議会は様々な分野の専門家がいる。人口ビジョンの目標に導ければよいかと思っている。

【渡邊会長】

良い形で市民の皆さんが「ニコッ」と受け入れてもらえる、そういった政策がこの審議会から提言できればと思っている。

8. 閉会

【事務局】

次回会議は、9月1日（月）14時からを予定。資料について改めてご案内する。

以上